

## 麻布大学同窓会宮崎県支部総会開催報告要旨

平成 27 年 1 月 24 日（土）、恒例の宮崎県支部総会と懇親会を宮崎市の中華料理店で開催しました。

本年度の総会及び懇親会への出席者はインフルエンザ流行で例年より少なめの 25 名でしたが、来賓に浅利学長にお越しいただき盛大に開催できました。



総会は長友士郎会長（昭和 36 年卒）の浅利学長出席のお礼のお言葉から始まり、浅利学長の日本獣医師会雑誌への投稿「麻布大学における獣医学教育への取り組み」の論説の記述紹介がありました。

続いて学園創立 125 周年記念事業への寄附

について、本人の寄附の状況を説明しての奨励や本年度から始まった卒業生の子女子入学制度の紹介等があり、特に宮崎県支部として本年度新たに開催した「麻布大学在学生の父母会」の報告がありました。26 年度同窓会九州地区連絡協議会で宮崎県出身の在学生が多いことを知り、急きょ開催した旨の報告がありました。

在校生の父母にも同窓会支部の存在と卒業した先輩達の県内での就職状況を知ってもらうことで、県内就職を促し獣医師等の確保につなげることや同窓会支部の活性化につなげることを期待しての開催でした。在学生とその父母を束ねていくために日高省三氏（昭和 54 年卒）にご子息が獣医学科 1 年生であるということもあり、父母会会長になって頂き支部として色々な面で応援することになりました。

続いて議事の協議がおこなわれ、協議では未納会費の徴収や 125 周年記念事業への寄附金額等前向きな発言がありましたが、協議事項は全員了承され、

次の講演会に移りました。講師は浅利学長にお願いし「最近の大学の状況と今後」についてお話をいただきました。

まず、平成 27 年に開催される「125 周年記念式典」に向けての大学の動きについて、今後の学園構想（ビジョン）がなければ大学の発展はないことから、構想の決定がなされたということでした。

学園構想を決定するに当たり、まず検討されたのが学園の特色をどこに持っていくかということ、従来から言われてきた「臨床の麻布」を特色として打ち出すことになったとのことでした。元来、麻布大学は都心周辺にありながら大動物の実習場を持つ大学として、大動物臨床にも明るい大学としての評価があり、その強みを大学の特色としてアピールできるような学園にしていきたいとのことでした。

さらに、125 周年記念事業についても、学生食堂や馬場、ドッグラン等の整備についても紹介があり、記念事業の会員への寄附のお願いがありました。

次いで、恒例の懇親会に移り、出席会員の自己紹介が終わると、座の主役は当然浅利学長で、学長の席の周りには常に会員が取り囲み談笑が絶えず、事務局の私たちも大学の話などを心行くまでお聞かせいただきました。

懇親会も名残尽きず、来年の再会を誓って全員で校歌合唱で幕を閉じました。その後の会員の行動は想像に任せるとして、浅利学長には遠路はるばる宮崎までお越しいただき親身になって我が麻布大学の話をいただきました。

心からお礼を申し上げ宮崎県支部総会の開催報告とします。

（事務局 安井千俊 V 昭 59 年卒）